

第13回定期演奏会（昭和54年1979年5月24日（木）18:30～）岩手県民会館中ホール
～初夏に歌うジョイントコンサート～



第13回定期演奏会

●初夏に歌うジョイントコンサート●

指揮 千葉了道

ピアノ 高橋紅理子
月井盛樹

1979. 5. 24 (木) 6:30 PM 岩手県民会館中ホール

<プログラム>

指揮 千葉了道
伴奏 高橋紅理子
月井盛樹

- [1] 大中恩 作品
混声合唱組曲「愛ゆえに」 土田藍 作詩
- ・こんな夜には
 - ・いつもあなたと
 - ・ふたりのうた
 - ・小雨の街を
 - ・翔ける
 - ・あなたも
 - ・わたしには
- [2] 千葉了道 作品
詩集「平泉」による四つの混声合唱曲 古館勝一 作詩
- ・霧
 - ・一字金輪仏
 - ・中尊寺
 - ・金鶏山
- [3] 楽しいフォークソング
- ・さらば青春 小椋佳 作曲
 - ・琵琶湖周航の歌 小口太郎 作曲
 - ・白いブランコ 菅原進 作曲
 - ・風がはこぶもの 菅原進 作曲
- [4] ワルツをどうぞ
ヨハン・シュトラウス作曲／堀内敬三 作詩
- ・ウインの森の物語
 - ・美しく碧きドナウ

<指揮者・ピアニスト・役員>

常任指揮者	千葉了道
ピアノ伴奏者	高橋紅理子
委員長	牛越恂
副委員長	
会計	
パートリーダー	Sop.
	Alt.
	Ten.
	Bas.

<団員名簿・出演者名簿>

< Sop >

< Alt. >

< Ten. >

< Bas. >

<主な活動> 昭和54年 1979年

- 4/22(日) 盛岡ハリストス正教会復活祭有志参加
- 5/10(木) 市民芸術祭合唱部門参加 (県民会館中ホール)
- 6/22(金) 第13回定期演奏会 (県民会館中ホール)
- 9/1(土) ギリシャ正教聖歌の夕べ (公会堂)
- 11/11(日) 移動芸術祭一戸公演 (一戸町文化会館)
- 12/23(日) 盛岡ハリストス正教会降誕祭有志参加

「北」の声を大事に

北声会運営委員 佐藤 洸

今宵は、北声会の第13回演奏会によるこそお出で下さいました。

かえりみますと、NHK福岡放送合唱団から編成がえをして以来10数年、私たちは毎年1回の定演のほか、県内各地の演奏旅行などやりながら、地道に生きのびて参りました。

定演では指揮者の千葉了道先生の作品や、県内の何人かの方々作品など、いわば「手づくり」の歌を発表し、北声会の名にふさわしく地味ながら北方性、土着性を大事にし、なおかつ美しい歌を、美しく歌おうと努力してきました。全日本合唱連盟理事長の石井敬先生が、いかにも北国生れらしい荒々しく重厚な曲を私たちのために作って下さったこともありました。

しかし、誰にでもわかる親しみやすい曲を、より美しく歌うということのいかに難しいかということ、つくづく思い知らされます。これが私たちの最大の努力目標でもあるのです。いろんな領域の歌に挑戦しました。今回もポピュラーに取り組んでみました。重い歌と軽い歌を、果してうまく歌い分けられるかどうか。それができたら嬉しいし、楽しい歌は笑顔で歌えたらなおすばらしい（これも実は不得意）し、欲張ったらやりがありません。

アマチュアなんだからと甘えることは許されませんが、一方では、アマならでは歌えぬものをというひらきなおりのみもあるのです。

メンバーも40代、50代がふえました。ほかはほとんど20代で、なぜか30代が少ない、というのも特徴でしょうか（ただし男子の場合のみ）。しかしこういうアンバランスも結構たのしいものでして、言ってみれば親子合唱団みたいな和やかさです。老人共は若者たちの「馬力」を学び、若者たちは老人共の「こころ」を学び、それをひとつにして、よりよい表現を、とつとめていくつもりなのです。

それに、指揮の千葉先生の若さ。「年令不詳」とかげくちたたかれるくらいのバケモノ的な若さには、団員一同、あきれかえってひきずられっぱなし。こうしてお互い若返りのできるうれしさ。

ー やっぱ音楽は楽しくなくてはいけませんね。

いずれ、北声会というのは宣伝も活動もバツとしますが、こうした家族的雰囲気と情緒が少しでも聴衆の皆さんに、演奏を通じて伝わる事ができるならこれに過ぎる幸いはありません。

今後ともローカルな味を大事に、和やかにやっいていこうと思っておりますので、よろしくおつきあいの程、ねがい上げます。

演奏会に考える

千葉了道

アマチュアの音楽とは何だろう。そして演奏会の意味は？。

夢中になって練習し、演奏会を企画している時にはあまり考えない。然し演奏会が終り、成功し、失敗し、その繰り返しの中で、間気持になって来る。文化運動だ、と大上段に振りかぶっている中では良いのだが、それが空しいものに思えて来る。

私たちの北声会合唱団は、発足の時“北声会らしい音楽を”という念願をもった。然しそれは明確なものではなかった。でも、以来団員たちは“らしい”ものを求めて来た。それが時にはプラス、時にはマイナスになった。大きい曲に取り組んでもみた。ポピュラーもやってみた。どれも大変難かかった。途中で捨てた曲もいくつかある。

今回は“楽しい演奏会を”と考えたがこれもむずかしい課題である。いつの時も企画は楽しく練習はきびしく、演奏は不安であり不満である。然し又一面楽しい。

矛盾の中に生きる私たちが、それでいいのかも知れない。

「合唱は楽しいな」と少しでも感じられる様な演奏会にしたいと思う。